

事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人百年の森づくりの会
活動名	水を育む山への恩返し 荒川源流域での森づくりと子供の森林体験
助成事業の種類	SDGs推進活動助成
	地球分野
事業の目的	
和名倉山の森づくり～豊かな原生林を有していた和名倉山は戦後の開発と62年前の山火事で様相が一変した。広葉樹の植林を開始したが同時に2次再生で自然の姿に戻りつつある。自然再生の森の姿を生態系全体で観察し公表することで森林保全につなげたい。	
長瀬宝登山の森づくり～専門家の意見も参考に長瀬町と協議し、広葉樹等の補植と雑木伐採で緑豊かで花咲く森を目指す。目標はハイカーが立ち寄る森づくり。	
三峰森の集い(旧三峰分校事業)～体験機会の少ない子供達等の特性に合った宿泊型森林体験会を提供することで未来を担う子供たちに森の豊かさを感じてもらおうと共により子供たちの健全育成を図る。	
広報活動～写真を中心に活動成果等を広報誌として発行すると共に様々な子供支援組織等にも配布して森林保全の意義を伝える。助成金対象以外も含め活動内容をホームページで公開。	
事業で取り組んだ地域や社会の課題	
水は命の源、その水を育むのは山、森林である。森林保全は生態系の保護、治山治水、河川用水の確保にもつながり、木材という再生可能な資源も生み出しさらに、森林の豊かさの復活は山村の活性化に影響し、ひいては地方の再生にもつながる。	
又、森づくりは長いスパンを要するもので会の名称の通り、盛衰はあっても植えた樹々を育て・見守り続け、その環境を見守ることも含め、活動を継続することが肝要である。	
秩父地域の自然災害の防止や活性化、中下流域・海域での豊かな生態系の保全のためにも、「荒川」の源流域の水源林を守ることが重要である。	
森を守るには、森林生態系全体を伝えると共に多くの人に親しみやすい森から興味を広げてもらうことが必要であり、未来に向けた子供達の興味も引き付ける事が重要である。	
取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	
和名倉山の森づくり:第54回ワーク10/25～26高校生を含め15名、調査山行6回で計13名参加。カメラ点検・電池交換、データ回収、植生観察、植林地片付け	
長瀬宝登山の森づくり:下草刈り・雑木伐採・植林地整備・ツツジ補植で4回計38名参加、10/19専門家現地調査、9/4・2/4長瀬町協議計2回	
三峰森の集い:7/19～20(ネットワーク所沢)三峰森の集い共催NPO17名会員他5名参加、8/5～6第2回三峰森の集い(いずみ高校山岳部)共催組織19名会員3名参加、8/7～9(若竹ホーム)三峰森の集い共催児童養護施設27名会員他6名参加、第3回三峰森の集い(分校整備ワク)会員他6名参加、寝具整備・日干し、片付け、清掃他。他に事前準備・分校施設整備・他団体案内・行政他地元協議で13回計39名参加。	
広報活動:ホームページに事業案内と活動状況を掲載、広報誌発行のための各種データ収集と関係団体協議、共助社会づくり課の社会貢献ワークショップ等を通じ他団体とのつながりを深めた。広報誌(会報50号)は350部印刷、会員に145部、関係機関・環境NPO・子供支援組織・支援者等に約180部配布。	
事業実施により達成した成果の具体的な内容	
和名倉山の森づくり:仁田小屋尾根の生態観察トレイルカメラを5個に増設(今後も増設予定)回収データでは小型～大型動物の様子が分かる。カメラ設置方法・データ回収方法も改善、データの一部をHPで公開。過去の植樹で鹿害で枯れた苗が多いが生育しているブナも確認。植林後片付けも進めた。	
宝登山の森づくり:ヤマザクラ・クリ・カエデ他の広葉樹はしっかり成長。レンゲツツジは環境に合致しなかったようで成長が阻害されている、ヤマツツジは下草刈りの効果もあり開花も充分。ヤマツツジ20本の補植も実施。長瀬町との協議で今後の森づくりの方向性を確認、次年度以降に期待が出来る。	
三峰森の集い(旧三峰分校事業):3回の三峰森の集いは参加した子供達の置かれた環境・特性も違い、異なる様相であったが子供達が生き生きと自主的に行動したのは同じ。共催相手と密な協議を行いその事情に極力合わせた企画とした事は良かった。担当相手からも好評価を頂いた。小さな擦り傷等はあったが、参加者全員が大きな怪我・体調不良もなく終わられたのが何より。今後の参加者の安全等のため分校の整備も進めた。視察に訪れるNPO等も多く、問合せも増えた。	

費用面での工夫
<p>当会の経常収入は年会費(個人2,000円、団体10,000円)と寄付であり、各種イベントの参加費や広報誌の配布は事情のある子供の参加もあり、負担軽減のため無料(光熱費は徴収、交通費は参加者自己負担)を原則としている、今年度は寄付も増え自前での事業費負担も増えてきた。</p> <p>今回の助成金で今まで不足していた機材類を購入したり広報誌の充実・配布先拡充など、今年度の活動の幅を広げることが出来た。</p> <p>植林及びその保全作業・森での体験活動は器具を使うことも多く・熱中症他安全に配慮することが必要である、安全対策品等を事前準備し人的な準備も行うことで大きな怪我もなく活動を進める事が出来た。</p> <p>工夫して手数料支払いを皆無とし、公共施設を使うことで会議費も削減できた、広報誌等の印刷費もより安価な方法を模索して削減に務めた。</p> <p>会員の拡大での会費収入の増加などで、今後工夫していきたい。</p>
地域社会への還元
<p>和名倉山仁田小屋尾根での動物のカメラ動画をHPIに公開し人がほとんど訪れない深山の生態系を一般にも公開する事が出来た。</p> <p>宝登山では親しみやすい森づくりに向けてヤマツツジを植樹、今後の方向性を地元長瀬町と共有し、宝登山頂上への植林地をめぐる登山道整備の方向性も協議・調整を進めることになった。</p> <p>三峰森の集いは様々な子ども達に森林体験の楽しさを届ける事が出来た。様々な子供支援組織(子供食堂・フードパントリー他)や環境NPOとのつながりも増え、三峰分校活用の問い合わせ・申込・視察も多く地域社会と共に活動する基盤が整えつつあると感じている。</p> <p>広報誌の会員以外への配布も増え活動を知ってもらう機会が増えてきたと考えている。</p>
今後どのように事業を継続し発展させるか
<p>和名倉山の森づくり:森の自然再生の歩みを森林生態系全体で観察し公表していきたい。具体的にはトレイルカメラによる動物観察、和名倉山での約30年の植生の変遷を当会の活動記録から見える化し、専門家の意見ももとに公開していきたい。</p> <p>宝登山の森づくり:長瀬町の「四季の花咲く丘づくり構想」に沿う形で、親しみやすい森づくりともその森へのアクセスを改善して訪問者を増やしたい。</p> <p>三峰森の集い:様々な環境の子ども達に森林体験会を提供できるよう、埼玉県・さいたま市・秩父市の協力を仰ぎながら他の組織や機関とも協同して森林体験会を継続すると共に、他団体が自然に親しむ活動を拠点としての三峰分校の活用を進めていきたい。</p> <p>広報活動:広報誌の充実・配布先の多様化を進め多くの人や組織に森での活動を伝えていきたい。</p> <p>森林保全は短期間で出来るものではなく、会の名称通り長いスパンで活動できるようつながりと人的リソースの充実を進め、継続していきたい。</p>

事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人百年の森づくりの会

1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	500,000	500,000	0	
自己資金	55,958	56,739	781	
活動実施による収入等	0	0	0	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	555,958	556,739	781	

2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	1,480	0	△ 1,480	
通信運搬費	55,200	51,474	△ 3,726	
旅費交通費	182,480	148,760	△ 33,720	
消耗品費	82,448	192,615	110,167	
備品費		0	0	
委託費	127,600	96,250	△ 31,350	
謝金	60,000	20,000	△ 40,000	
人件費	32,000	32,000	0	
その他	14,750	15,640	890	
支出の部 合計	555,958	556,739	781	